

平成29年度第7回 福島県廃炉安全監視協議会(2月8日開催)での未回答質問事項及び回答

| | | 回答 |
|---|--|---|
| 1 | (高坂原子力総括専門員) 1号機原子炉建屋エレベータシャフト解体時の監視について ・ サンプルングポイントSP-4の上側(ハイ)の運用はどうするのか。 | エレベータシャフト解体時は、ダストが上に舞い上がる可能性を考慮し、ご指摘の通り、SP-4をSP-4(H)に切り替えて作業を行う計画です。 |
| 2 | (石田専門委員) 2号機原子炉建屋屋根保護層撤去工事時のサンプルングについて ・ ダストモニタ配管内に放射性物質が沈着することも考えられるが、データの補正等は考えているのか。 | 測定したダストモニタの値に補正等はしておりません。 2号機のダストモニタ配管は塩化ビニール製ホースを使用しているが、日本原子力学会の文献で、放射性ヨウ素(配管壁に沈着しやすい気体状物質)の塩化ビニール配管中の沈着率が流量28.3L/minで1.7%という実験値があります。塩化ビニールは流量が増すと沈着率は小さくなるデータが示されており、2号機ダストモニタの流量は約40L/minであるため、ダスト濃度測定に及ぼす影響は小さいと考えております。 |
| 3 | (長谷川専門委員) 3号機使用済燃料プールの水質変化について ・ 3号機使用済燃料プールの放射能濃度で2017年2月が低下しているが理由は。 | サンプルング実施日近傍で(SFP水の浄化やSFP水の補給、降雨による流入等、)特に水質に影響する事象は確認されておらず原因は不明です。 なお、2017年4月には2016年10月と同等の値に戻っていることから一過性の事象であり、有意な変動値ではないと考えております。 |